

刊夕日一廿月五



定価一円 毎一ヶ月五拾圓 郵税五拾圓
 廣告料五拾圓 十二字第一行金五拾圓
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社 電話六三〇〇
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

李官堡の激戦と

大越中佐の戦死に就て (六)

岡本少将閣下御前講演

10 夜襲成功の場合後方に報告の意味を民家に火を放つて合圍としたが之れは時に誤解を起すことがあると考へた。當日の夜襲では私が點火したるも或は偶然火災の起ることもありましたから、又之れが爲め敵線の一部が照明されて尙村落外にありし部隊の爲めには有力なる作用を呈しましたが敵は亦無闇に火災の附近を射撃して一時附近が彈叢となつて困却も致しました。

11 村落内の格闘は統制を以て行はねば後が續かずして先頭者を孤立せしめ損害が多い様です。人少なからず人少丈けに區分する必要がありませぬ。突入の動機は何か好機を掴み突撃者が一時に刃を上げる様にならぬと駄目なことが多し様です。待ち構へて居る時砲彈の裂烈により『さらけ』の機み又は爆彈を投げ其破烈の音と共に『さらけ』で出ることでありませぬ。統制とは一部出發したら一部は止まつて我に逆襲し來るもの

に二發でも三發でも射撃を加へ其先頭に立ちあるものを一、二名斃すこととであります。之れには味方は非常に力を得敵の出鼻を挫きます。然る時其殘部も直ちに跟隨して之れを支援するのであります。我士氣を一層發揮し敵には再度の衝動を興るのであります。此際後續者が『何くそ』とか『さらけ』『よし來た』とか激勵の聲と諸共に進出することとあります。

12 家屋周囲の圍壁の戦闘は厄介であります。高い壁を乗り越すは容易ではありませぬ。壁一重の戦闘は敵味方共に難澁でありまして如斯場合は如何しても門口と西方から行はねばならぬ。兵卒が日本手拭の先の方に練瓦を包み一方に結び瘤を作つて握り留として壁の上へ出る頭を叩き付けたたりしました又壁に平行する様に斜から練瓦石等を投げ付けるので壁に寄り添ふて居つても顔面を強たか練瓦を以て撃たれて失明した後頭部を撃たれて卒倒するものも出ました。壁の上に出るものは下から撃つことも在りませぬが遠く壁反對側に持場を定めて置て出た頭を射撃するの

文藝募集

13 夜襲等にて一度固着した兵を立たしむる場合敵火を受け殊に我が射撃でも爲し居る場合には眞に困難を來すものなら全線に漫漶し容易ならぬことに立到ります。氣の弱い兵又は元氣な分隊長等が一寸調子附に掛聲して敵に近接告知を與ふる様なものであり之れは餘程將來と雖も注意を要すること考へ當時此發聲を聞きたる瞬時の失敗感は今尙ほ忘れることが出来ませぬ。(完)

御料理 一の井 電話一六七

開店 五月十六日より

何卒御引立願上ます

平町南町元大和家を改築

ランチルーム 一の井 電話一六七

新らしく安い

葬具と靈柩自動車御用達

造花

町川新町平 橋本屋

電話一六三番

セメント 壁用材料

コールタール

ペンキ塗料

板ガラス

磐城セメント株式會社

代理店 西村屋藥舖

平町二丁目電話三三

旭硝子株式會社製品

赤菱印

板ガラス

硝子食器

菓子壘

其他各種

製造販賣

松崎硝子製作所

平町新川町(電話一四二番)

支工場 仙臺市榮町 電話五九七番

正札堂の夏服

小學生用 三十五錢ヨリ

特製 八十五錢ヨリ

中學生用 一四七十錢ヨリ

正札堂特製品 式四也

正札堂洋服店

電話四三六

外科 X光線科

性病科

外科

平町田町

安齊外科醫院

電話四七五番

入院隨意

三井

タクタク

電話六八五番

兩殿下御買上の

御料鹽豚

田町三三三三屋

電話三三三番

吉田眼科病院

平紺屋町 電話六八番

箱崎上等兵の死体発見さる

昨年四月五日戦死し其の後一ヶ年を経過したが死体を発見するに至らなかつた満洲歩兵獨立守備隊上等兵石城郡玉川村箱崎光氏の死体が通遼東方六百マイル附近五道木西方から発見された由

財政難切抜けに 一萬圓を借入れ

小學校基本金からも 節柄種々の催物を計畫中であるが記念日當日は中通各地に海軍省より市來崎中佐

一萬八千圓運用

既報昨日の平町會は午後一時半より會議室に開會財政難切抜けの一時金として地方銀行より二錢八厘で一萬圓借入れをなす外小學校基本金一萬八千圓を一時運用すべく決し土木委員を左記の如く改選渡満する井上、野崎兩縣議に産業調査を囑託する事等を可決し午後四時閉會した

佐々木龍若 千葉彦治 馬目武之助 馬目雅治 武田元之助 鈴木光吉

磐中の

母の會

磐城中學校に於ては既報の如く来る二十三日午後一時より母の會を催すが當日は授業參觀及び一二年の音楽會、課外運動參觀あり懇談會に移る豫定である

海軍記念日に

講演會開かん

平在郷軍人分會及平青年團にては来る廿七日の日本海戦廿七周年海軍記念日に時

松永大佐、龍崎中佐の三氏が講演の爲め派遣されたので是非平町に於ても同氏等の講演會を催さんとの意見があるので近く交渉を行ふ

苗代害虫 共同驅除

石城郡平窓村農事實行組合では昨廿日午後一時より同村小學校に於いて協議會を開會苗種收穫の調整、農産物共同出荷、苗代害虫の共同驅除等に就いて研究打合せを行つた

平署會議室で 營業者座談會

不面目な縣下第一を 是正せんとの研究 紫雲英栽培 郡農會が注意 石城郡農會では目下各農家紫雲英の開花時節となつたので近く栽培肥料配合種類等に關する注意書を發する

自動車 事故防止

平署管内に於ける自動車事故は縣下第一の統計を見て居るので各營業者は種々事故防止に就いて常に研究を怠らぬが来る廿五日午前九時より平署會議室に於いて管内全營業者が參集事故防止に關する座談會を催すと

自分の部落に ポンプを寄附

石城郡磐崎村役場書記吉田正治氏は居住部落たる同村大字馬玉宇數馬の消防第五部に唧筒を有しなかつたので昨年十月一日自費五十圓を投じて三井炭礦からハン

ドポンプを譲受け其を第五部に寄附した爲め平署では近く縣廳に表彰方を申請する事になつた

茨城が小學校視察に 茨

石城各炭礦 公休を増す

石城郡各炭礦にては今後季節的に需要が漸次減退するので一ヶ月七日乃至九日の公休を行ひ需給の調節を圖ると

對校野球戰

磐中 平商 病氣や負傷でメンバール入替

平魚市場で けふセリ市

平魚市場で けふセリ市 場では從來の營業法たる委託販賣に依る營業不振對策として過般重役會を行つた結果糶賣を行ふ事に決し本日第一回の糶市を行つたが鯉、サバ、近海雜魚等にて二百數十圓の取引を見た

雙中 來月五日に 雙中野球

磐中 雙中 來月五日に 雙中野球 磐城中學校對雙中學校野球試合は來月五日午前十時より磐中グラウンドに於て行はれる

諸稅收入 大減收ふり

平稅務署における諸稅の收入は年一年減少をたどり昭和六年度においては好況時代の半分に達せぬ九十五萬八千八百五十五圓といふ大減收ぶりであるこれが原因は炭礦の休廢山、酒造業者の廢業等々續出の結果によるがさらに向後も減收するものと見られてゐる

近火御見舞御禮

謹啓昨曉近火の際は早速御馳付御見舞を賜り且つ消火に御盡力被成下御蔭様を以て鎮火致し候段有難御厚禮申上候 一々拜趨御禮可申上等の處混雜中御尊名伺ひ漏れも可有之候間乍略儀紙上を以て御禮申上候 敬具 五月二十一日 醫學博士 石山謙郎

火災御見舞御禮

謹啓昨曉災火の際は早速御馳付御見舞を賜り且つ消火に御盡力被成下御蔭様を以て鎮火致し候段有難御厚禮申上候 一々拜趨御禮可申上等の處混雜中御尊名伺ひ漏れも可有之候間乍略儀紙上を以て御禮申上候 敬具 五月二十一日 平町紺屋町 織田末松 織田萬治郎

衛生ビラ配布

車にて歸校した 那好間村字上好間下組衛生區長鈴木廣治氏は此程自費を以つて傳染病豫防の宣傳ポスター四千枚を印刷し受持區域全部に配布した

駒場教官歸校

平商 駒場教官歸校 平商 業學校駒場教官は既報の如く去る十四日より十九日迄新潟縣を中心として行はれたる仙臺工兵第一大隊現地戰術參加の爲め出張中の處昨日平着午後三時五十三分列

神谷苗代管理

石城郡神谷村農事實行組合では明廿二日午前十時より小學校に於いて幹部會を開き苗代の管理並に同村補習學校生徒の實地教習等に就いて協議をなすと

初夏の味 爽やかな感觸 胡瓜や茄子等

初夏の味覺！な
んといつても食
膳にならべられ
る爽やかな食べ物市内の八
百屋の店先に何かめづらし
いものはと見ると胡瓜や茄
子ももう出てゐます、下り
ものだけにたかい、胡瓜は
茨城産一本三錢から五錢、
茄子は静岡物一つ三錢から
五錢、新しい果物は臺灣産
の西瓜一個二圓二十錢、ト
マト百八十八錢等で間もな
く市場に飾られるだらう。

火災の原因は 残火から 損害二萬圓

昨晩紺屋町の出火に就いて
は平署の嚴重な調査に依り
織田材木店使用人鈴木倉吉
方家人不在中残り火から發
したものと見られて居るが
損害高は住宅四棟五戸一万
圓其他動産一萬一千圓合計
二萬一千圓に達しうち保険
加入額は一萬五千圓である

各地に自由行動を取つて
居り門馬方より成田丸の捜
索願を平署に提出したが其
後示談成立し乗組員の給料
を拂ひ成田丸は江名漁業組
合に返す事となり近く江名
へ入港すると

平町總自動車の 使用ガソリン代 一ヶ年二萬餘圓

一月より三月迄宮城縣石巻
町本町馬重作と賃貸契約
のもとに出漁中の處門馬氏
が乗組員の給料を支拂ぬの
で乗組員が石巻には入港せ

音楽舞踊と劇の夕

来る廿八日平第三講堂に

平町鎌田青年の「音楽舞踊
と劇の夕」は本社後援の許
に廿八日午後六時より平第
三小學校に開催される筈で
あるが當日の出演者は
古河延二 岡崎榮藏 藤
田武夫 藁谷高一 伊藤
義政 酒井通郎 中野正
男 佐藤郁也 金成錦星

漁船の 搜索願

示談が成立
石城郡江名町漁業組合所有
船成田丸(四十九噸)は本年



今夜は南西の風
小雨模様明日は
北西の風午前中
曇り次第に晴れ

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
グアイオリン 獨奏 武田澄子
獨唱 武田功 ピアノ 伴奏
武田忠一郎
後七、三〇 講演 法學博
士 芦均
後八、〇〇 漫談「一時四
十五分」大辻司郎
後八、三〇 宮蘭節 宮蘭
千廣外

明日の部

前九、一〇 榮養料理「木
の芽和へ甘藷の油揚げ」
榮養研究所
前九、三〇 子供の時間
唱歌 日本教育音楽協會

年頃の女を乗せて 勢ひ餘つた武力職

ガラス戸十一枚を破壊し
頭部に重傷を負ふ
オートバイの失敗

石城郡小名濱町小湊二二九
ブリキ職中野正雄(三三)は昨
廿日午後三時半頃近所の雜
貨問屋小湊寅之助方のオート
バイに同家の娘好子(七)を
同乗せしめ本町通りを進

戸籍法違反の 科料未納十七名

平檢事局へ召喚して注意

平區裁判所に於て去月中法
律不知の爲め法定期間内に
戸籍の届出をなさず戸籍法
違反として科料一圓乃至五
圓に處せられた者は五十名
を與へる由

合唱團
前一、〇〇 宗教講話
「五觀偈」大慈禪寺住職 網
木賢明
前一、四〇 講演 同志
社大學教授園根三
「諸の道しるべ」實演機問
金太郎 解説池内信嘉
後二、五〇 映畫物語「吽
倉重四郎」國井紫香
後一、四五 新日本音楽
久本玄智外五名
後二、二〇 運動競技
「六大學野球リーグ戦試
合状況」雨天順延 慶明
決勝戦ある場合のみ放送
後二、二五 浪花節「唐人
お吉」木村重行

後三、〇五 獨唱とピアノ
獨奏 獨唱會田タミイ
ピアノ 伴奏 石渡喜久代
川上良武
後四、〇〇 角力中繼「夏
場所大角力状況」國技館
より中繼
後六、〇〇 子供の時間お
話「ウイクトルユーゴ」
堀正旗
後七、三〇 ピアノ 解釋講
庭 獨奏マキシムンヤビ
ロ 解説前田三男
後八、二〇 新内「鬼怒川
物語」鶴賀吉之助
後八、五〇 連續講談「白
子屋騷動第四席」西尾麟
慶
後九、三一 奉天より

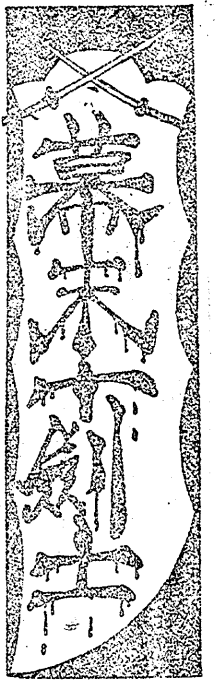
谷川瀬耕土を一周 一萬米マラソン

海軍記念日の平商

平商業學校にては来る二十
七日の海軍記念日に際し講
演會終了後全校生徒の谷川
瀬一周一萬米のマラソンを
行ふと
平職業紹介所報告
求人者の部
△農夫 二十五迄 尋卒
月八圓(内郷村某)
△女中 四十迄 尋卒 給
料面談(平町某)
△塾工 見習 十六迄 高卒
△農夫 廿七才 無學 給
料面談(田村某)
△鑄物工 二十才 尋卒
給料面談(湯本町某)
△洋裁工 十六才 高二卒
給料面談(内郷村某)

柔道選手出發

雙葉
中學校に於て明日開催され
る濱三郡中等學校柔道大會
に出場する磐中及平商選手
は既報の如く明朝平發午前
五時四十分にて磐中橋本教
諭、平商武川教諭引卒の下
に出發すると



【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演
近藤 紫雲 畫

第五十六席 眞庭念流達人櫻井五助

五助不利に陥る

櫻井五助處分の事に就て
榊原家の老臣が協議いたし
た、スルと中根與左衛門が
與「村上主殿が殿の内名に
て森川甚平を成敗いたす時
に同行いたした遠藤仁右門
を斬りそれを甚平が討果せ
し如く殿様に申上げ己れの
宿意を晴らしたは彼の遺書
にもあれば此事は眞實であ
らう、主殿の所意は武士に
あるまじき事、然し五助が
村上に迫つて自殺なさしめ
たは村上には當家の譜代にて
祖先は戰場に功勞ありし者
なれば全名家の絶えるを惜
み斯く取計ひしと申すが主
殿に非行があればこれは訴
へ出て我々共の裁許を乞ふ
べきが當然、それを主殿に
迫つて自殺なさしめたは老
臣共を蔑如にいたしたる所
爲、我々共が偏頗なる裁許
をいたすであらうと存ぜし
故にいたした事と思ふ、尙
又御家法に背きいたせし方
である、此儘に捨置いては
我々共の威光も薄く且又殿
様の御威光にもかゝはる事
と思はれる、依て五助には
相當の處分をいたして宜し
からう、各々は何と思はれ
る」



佐「嘸ど退屈であらう、土
藏に書物があるからそれを
出して參つて、つれづれを
感めるが宜い」
五「有難いことにございま
す、シテ御老臣方の御意纏
はどういふ御意見でござい
まするか」
佐「而倒になつたよ、貴公
も知つて居るであらうが村
上の親族には中根與左衛門
殿が居る、これが主殿が自
殺いたしたは貴公に迫られ
て據ろなくいたしたものと
申し、それに主殿に悪き事
があらば老臣へ訴へ出て其
の裁許を乞ふが順序、然る

たが追て沙汰をいたすと慥
う云つたので五助を處分せ
よとも又咎めは無いとも申
しません、茲で老臣は引取
る、此方は五助です、目附
の岡島佐仲の許に村上の若
黨七郎次と女中のおかめと
共に謹慎いたし居ると岡島
佐仲が五助を居間に呼入れ

追放にでも處せられますか
ナ」
佐「先づそんなものであら
う領分境より追放、其時に
は主殿の甥の周一郎が待受
けて伯父の敵と申して貴公
を討たんと爲すであらう」
五「これは怪しからん、主
殿に罪あればこそ横死をい
たしました、それを拙者ゆ
えに死せしものと思はれる
は心得違ひ、これは遺怨み
でございませう」
佐「そんな理窟は周一郎に
は判らぬて又これはわしの
邪推であるが中根與左衛門
殿が周一郎に助勢して貴公
を討たせるであらう」
五「それは不埒至極」
佐「道理から見れば不埒に
は相違無いが此場合には道
理の威力は薄い、さうなれ
ば貴公はどうする」
五「據ろございません、拙
者を村上殿の敵と思ひつめ
勝負を望むとあらば運を天
に任せて生死を争ひませう」
佐「それは尤もさういふ時
にはもう是非を論ずる餘地
は無いからナ、下世話にも
身に降りかゝる火の粉は拂
はねばならぬと申す事もあ
る、況して潔白な貴公の事
とて名乗りかけられては勝
負をいたすであらうが、何
にせよ相手は多勢、貴公は
一人若し彼等の爲に討たれ
る事になれば大死だ、依つ
てそんな馬鹿者を相手にい
たさず此處を立退くが宜し
からう」
五「拙者が立退きましたな
らばあなたが御迷惑をなさ
いませう」

佐「イヤ其邊の遠慮は無用
生物を預り居ることゝ何
程心を着け居るも手ぬかり
はあらう、先方は逃げる一
心で油断なく隙を窺ひ居る
さすれば貴公が立退けばと
て先づわしは閉門で済むで
あらう、無論目附役は取上
げられるであらうが五十俵
や百俵の役料を貰ひ憎まれ
役の目附などをしてゐるは
好ましくない、これを好機
として退役するが宜い」
と云ひました預り主が
承知で逃すことゝして五助に
とつてはこんなたやすい事
はない。

御用命 印刷物の總
常磐日印刷株式會社
電話三六〇番

夏の通學服
丈夫で輕快な
霜降小倉服
値段も下記の廉價提供
小學生用……¥ 0.30、
同〔特製〕……¥ 1.00、
中學生用……¥ 1.75、
あかや洋服店 電話二〇三

專門
産婦人科
花柳病科
井坂醫院
赤い目
かゆ目
一目に一滴できく
神教水 (新容器入)
平町二丁目(電話三六)
堀藥局

お醬油は ヤマフル
醬油味噌
たひら 正宗
鯉節 食料品
鹽屋
山崎合名會社
福島縣平町(電話營業部)醸造工場
明治生命磐城代理店 山崎與三郎